園長と語ろう

― 成長の気づき ―

園長　家田　美里

入園・進級から一ヶ月が経ちました。子ども達の様子はどうでしょうか？（この原稿を書いている時は一週間しか経っていません）

新入園児は家に帰りたくて泣く子がいませんでした。保護者の方と離れる時は涙が出る人も居るのですが、五分も経たない内に泣き止み遊びへ直行です。園へ着いたらうがいをする事で一呼吸おいて部屋に入り、担任に手紙を渡したり、もらったりをします。コロナ前はうがいの習慣がなく、バスが着いたらリュックとむらさきかばんを靴箱の前へ置き（来た証し）園庭へ直行。今年の強者達は証しも残さずかばんを全て背負ったまま三輪車に乗ったり砂場で遊んだりしています。そしてその遊びの中で「だめ」「あっちいって」と言われることがでてきています。「だめっていわれるからようちえんにいきたくない」と言う言葉を聞く事が増える事でしょう。社会生活が始まり、初めてぶつかる壁です。園を休む事は構いませんが、そこは最終手段として、まずはお子さんの話しに耳を傾け、嫌だった気持ちを聞いてあげてください。そしてそっと背中を押して園に送り出してください。

さて進級児はといいますと、あまりの成長に驚きました。一年間・二年間の園生活で生きる力がとても付いていました。今はまだ新しい生活に緊張する毎日です。新しい担任に一生懸命に付いていき、自分の楽しい遊び・安心できる遊びを模索中です。いつもなら緊張すると「いきたくない」と言い休みがちだった○くんや△ちゃんも休まず来ています。その姿に私達は成長を感じました。自分で解決しようとしています。答えがでるのはまだ先ですが試行錯誤をしている今を応援しつつ見守っていきたいです。

先日、年長児が御忌会の為、金戒光明寺へ参拝いたしました。保護者の方も子ども達も大きなお寺での法要などあまり経験がないと思います。御影堂はとても大きく、柱一本にしても大人二人で手を広げても足りない程の太さです。天井は高く、大きな阿弥陀様が鎮座しておられますが、見上げてもお顔はなかなか見えない程の高さです。見たこともない人数のお坊さんが一斉にお経を唱えます。お腹から声を出すので迫力があり圧巻です。そこへ笙などの管楽器の演奏もあります。初めて来られたお母さんが「こんなに凄い事だとは思っていませんでした」と言われていました。そんな中でだいだいのくみのみんなは代表さんと歌の代表さん、お母さん達は生歌でコーラスをやり遂げてくれました。実は御忌会は三日間あり他の二日は他園がお勤めしています。豪華な衣装を着て、生歌でのコーラスは当園だけです。人数が減りお母さんには負担が大きくなっていますが伝統として残していっていただきたいです。だいだいのクラスの半分が代表になり、歌の代表さんも大きな声で歌わないといけません。御影堂の隅っこに座り、目一杯大きな声で歌っていました。前で代表の受け手だった私にも声が届きました。献香・献灯・献華は練習を重ねました。しかし、お香は練習とは違い少し高価な渦巻香、ろうそくは長いものが五本もあり、お花は初めてケコの上に盛ってあります。そんな初めてな事と大きなお堂、そしてたくさんの人に見られるという緊張マックス状態です。折角のやる気が当日に失われないようにと私達も緊張していましたが、いらぬ心配でした。練習ではなかなかできなかった事も本番は何なくこなし堂々と代表を勤め、終わった後の顔は清々しく自信に満ち溢れていました。みんなホッとしたのか、控え室（少し広め、むらさき専用の部屋）をわぁーわぁー、キャーキャー叫びながら走り回っていました。普段なら「こらー」と怒るところですが、今日だけは大目に見ていました。だいだいのくみのみんな、お疲れ様でした。